

地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター 令和2年度 年度計画（概要）

第三期中期計画

～これまで培ってきた技術・知見を活用し全都的な取組を展開～

【重点方針】（計画期間：平成30年度から5年間）

- ①高齢者の特性に配慮した医療の確立・提供と普及
- ②高齢者の健康長寿と生活の質の向上を目指す研究
- ③医療と研究が一体となった取組の推進
- ④高齢者の医療と介護を支える専門人材の育成
- ⑤業務内容の改善及び効率化
- ⑥財務内容の改善等



令和2年度計画のポイント

医療と研究が一体となり、一層の社会貢献を達成するための新組織を設立

認知症未来社会創造センター

○認知症社会とも言うべき時代の到来に備え、当センターがこれまでに培った膨大な臨床・研究データ等を活用し、AIなどを用いた新たな認知症予防の取組を推進していく。

臨床

- 国内有数のもの忘れ外来開設（平成11年）
精神科・神経内科・研究所医師が連携して診療、治療の向上
- 認知症疾患医療センター指定（平成24年度～地域拠点型）
区西北部二次保健医療圏の認知症医療・介護連携の拠点として地域の支援体制を構築
- 画像データの蓄積（PET 約13,000件 MRI 約6.5万枚/年）



PiB-PET
アミロイド沈着

研究

- 高齢者ブレインバンク 日本最大の脳組織蓄積（老年性疾患の脳組織 約2,100件）
- 高齢者疫学研究
都内外の地域コホートでの調査データ・保存検体による観察研究や東京都後期高齢者レセプト分析により、認知症リスク要因/認知症抑制効果を解析
- 認知症とともに暮らす地域づくり（平成28年度～：都から受託）
大規模団地等において認知症支援の拠点を設置し、多職種協働による社会支援や地域づくりを推進

教育研修

- 認知症支援推進センター（平成27年度～：都から受託）
医療従事者等への研修や島しょ地域への訪問研修により、都内全体の認知症対応力を向上
- 初期集中支援研修（平成24年度）
評価方法DASC-21※を考案し 全国で使用されている



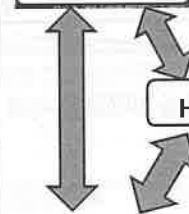
※DASC-21
The Dementia Assessment Sheet for
Community-based Integrated Care System

フレイル予防センター

○フレイル予防は介護予防の観点からも重要な課題であり、センターの持つ知識と技術を統合的に活用することで、フレイルでも快適に過ごせる社会の形成に貢献する。



研究所



病院

サルコペニア基礎研究

- ・筋委縮などの病態解明や早期診断バイオマーカーの探索
- 地域におけるアクションリサーチ
- ・フレイル予防の仕組みづくりと介護予防効果を実証（大田区元気シニアプロジェクト）

介護予防推進支援センター（平成29年度～：都から受託）

- ・地域づくりによる介護予防に取り組む人材を育成

研究推進の基盤強化

- ・産学官連携による老年学における基礎・応用・開発研究
- ・研究データ等の管理活用体制を整備

生活機能の維持・回復に向けた医療を提供

- ・フレイル外来での個々の症状にあった栄養、運動指導
- ・ポリファーマシーチームによる適正な服薬管理
- ・栄養サポートチームによる栄養介入
- ・疾患別リハビリテーションの早期実施

認知症未来社会創造センターの設立



1. 概要

①背景と目的

- 2040年には認知症1,000万人、その前段階のMCI 1,000万人、認知症社会とも言うべき時代の到来が予測（東京都だけでも200万人以上の認知症とその予備軍が見込まれる）
- 令和元年6月、認知症施策推進大綱が発表され、**共生と予防**が施策の柱に位置付け
- こうした状況を踏まえ、当センターが認知症対応のための医療と研究の最先端を切り拓き、都民への貢献を果たす新たな取組を実施

②取組内容

- これまで培ってきた膨大な臨床・研究データに、AIなど最先端技術を活用し、新たな認知症**予防**の取組を推進
- 都から受託している認知症支援推進センター等の事業推進を通じ、人材育成や地域づくりなど**共生**にも貢献



【地域づくりの取組事例（高島平ココからステーション）】

「認知症予防もケアも、東京に住んでいて良かった」と言われるような先見の明が社会実装につながる成果を目指す。

2. 令和2年度の主な取組

ビッグデータを活用した健康長寿DB	AI 認知症診断システムの構築	地域コホート等ビッグデータの活用
<p>① TOKYO健康長寿DB 《事業の内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・センターの保有する各種データを統合し、オープンに活用可能なDBを構築 <p>R2年度目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保有データの統合化を開始 ・DBシステム設計 <p>②メディカルゲノムセンター 《事業の内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生体試料（臓器、細胞、血液等）の保管・提供や生体試料からゲノム解析 ・低コスト・低侵襲な診断を可能とする体液バイオマーカーの開発 <p>R2年度目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・包括的研究同意取得方法等の検討 ・既存のバイオリソース、ブレインバンクの統合に向けた検討 ・体液検体蓄積の開始 	<p>① AI診断システムの構築 《事業の内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・MRI画像データを活用し、AIによる認知症診断支援を実施し、医療現場における早期診断をサポート <p>R2年度目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・AI診断システム全体の設計・構築 ・主要な脳疾患の画像データを教師データとして加工 <p>② AIチャットボットの開発 《事業の内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・AIを搭載した自動会話プログラムを開発し、在宅高齢者に展開し、認知症の早期発見・早期支援につなげる <p>R2年度目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・AI会話機能の活用研究に着手 	<p>①地域コホート研究データの統合及び活用 《事業の内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域コホート研究*データを統合して活用し、生活習慣や病歴等が高齢者の認知機能の変化に果たす役割を明確化 ・認知症リスクチャートを作成し、予防的介入の確立・普及を図る <p>※地域コホート研究…特定の要因を有する集団と有していない集団とを一定期間追跡し、研究対象となる疾病の発生率を比較する観察的研究</p> <p>R2年度目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・過去データの精査、項目データのカatalog作成 ・過去データの統合